

東北目指し4強激突 **あす** 準決勝



春季東北地区高校野球県大会は第7日の27日、青森市の県営球場で準決勝2試合を行う。第1試合（午前10時開始）は青森

山田と八学光星、第2試合（午後0時半開始）は八工大一と弘前学院聖愛がそれぞれ激突。6月7～11日に岩手県で開かれる東北大会には、優勝、準優勝校が出場する。4校のこれまでの戦いを振り返り、昨春と同じ顔ぶれ、組み合わせとなった準決勝を展望する。（本田海輝）

山田高 投手陣が奮闘×打線に破壊力 光 星

▽青森山田―八学光星 県大会4季連続優勝を目指す青森山田は、3試合で失点1と投手陣が奮闘。中でも小嶋は全試合に先発し、14イニングを無失点と安定感抜群だ。攻撃面では長打力があるリードオフマン対馬の活躍が光る一方、勝利には中軸のさらなる奮起が必要か。勝負どころでの打線のつながりが勝敗の鍵を握りそうだ。

八学光星は破壊力抜群の打線で、全試合を2桁得点で勝ち上がった。いずれも本塁打を放っている主将の3番中澤恒、4番長谷を中心とした打線は切れ目がなく、どこからでも得点を狙える。背番号1を背負う岡本、昨夏の甲子園を経験した洗平らピッチャー陣を、無失策の守備陣がもり立てる。

工大一 伝統の機動力×多彩攻撃光る 聖 愛

▽八工大一―聖 愛 全試合コールド勝ちで勢いに乗る八工大一。盗塁数は3回戦の八戸北戦で11を記録するなど、計17を数える。伝統の機動力で相手を揺さぶり、自軍のベースを持ち込みたい。大型左腕の主戦金淵は準々決勝・八工大二戦で7回を被安打2と好投。打線も打率4割超と好調で、昨春敗れた相手に雪辱を期す。

聖愛は同地区の弘前東との準々決勝、七回一挙4点の猛攻で逆転勝ち。試合数が他チームより1試合多いものの、12犠打、22盗塁をマークしており、安打に小技、足技を絡めた多彩な攻撃で得点を重ねる。6失策、12失点と不安が残る守備面を改善し、ここの集中打で2年連続の東北大会出場なるか。